

新「長野県史」編さん検討事業

文化財・生涯学習課

1 事業目的

現在の長野県史で未刊行の戦後現代史を中心に、県民に広く活用される新たな「長野県史」編さんについて具体的な検討を行う。

県史編さんの意義

- ・ 県の歴史の歩み、社会や県民生活の変遷を後世に伝承する
- ・ 県民が歴史に学び、郷土愛・一体感・誇りを育み未来を考える
- ・ 歴史資料の散逸・滅失を防ぎ現在・未来の県民利用に供する
- ・ 歴史研究を担う地域人材の育成

2 現状と課題

(1) 現県史の概要

- ・ 刊行数：全 38 巻 70 冊（通史編 9、資料編 45、民俗編 14、方言編 1、年表 1）
- ・ 対象年代：原始・古代～近代（1945 年終戦まで）
- ・ 編さん期間：昭和 43 年（1968 年）～平成 4 年（1992 年）の 24 年間

(2) 課題

- ・ 戦後現代史の県史が未刊行
- ・ 近代歴史資料の散逸・滅失の危機、資料調査・収集の停滞
- ・ 生の証言者、地域の歴史研究者の減少

3 事業内容

長野県成立 150 年（令和 8 年）を見据えた県史編さんの具体化に向けて、専門的な知見や幅広い県民意見を反映するため、歴史分野の専門家や各界の有識者等に参画をいただく検討会を開催する。

【検討事項】

編さん目的、対象年代、各編構成、普及活用方法、組織体制 等

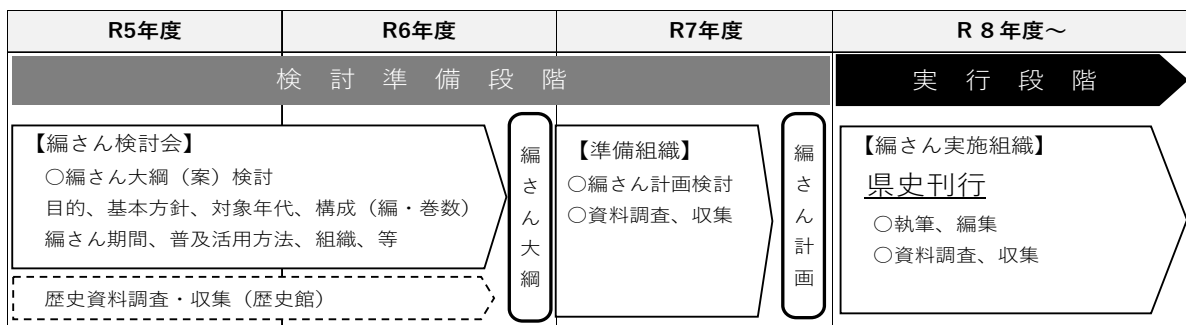
【検討委員】

研究者、歴史関係団体、市町村、経済界、報道機関、公募等

【検討期間】

令和 5 年度～令和 6 年度 ※「編さん大綱（案）」の策定

〈参考〉検討スケジュール（イメージ）



4 令和5年度予算額 74万5千円